

万成石の健太が行く No.12【最終回】



(有)武田石材 (岡山市)

高橋健太

して国内産の石を採掘する者としての意見を書きたいと思います。

現在、日本で使われている墓石

「万成石の健太が行く」の連載を書き始めて一年間が経ちました。本当にあつという間の時間でしたが、とても成長することのできた一年間だと感じています。取材のためにさまざまな産地を訪れ、その石に携わる方々に色々な話を聞き、また色々な仕事を体験することでした。

そこで最終回となる今回は、僕がこの一年で考え感じたこと、そ

使う石は、日本で採れた石を使うべきではないでしょうか？ 特に墓石材は絶対に国内産の石を使用したほうが良いと考えています。

これは個人的な考えですが、日本で生まれ、日本で育ち、日本国を舞台に活躍された方は、やはり日本の大地の一部分である「日本で採れた石」の下で眠るべきではないかと思っています。

日本の気候や湿度に合わない中国材もあるようで、さまざまなトラブルが各方面から報告されているのも事実です。「十年経ったらポロポロになった」「一年も経たないうちに色が変わった」などクレームは様々なようですが、本来お墓は、何世代にも渡って何十年、何百年と守っていくものです。その面からみても、日本の気候・風土に合った日本の石を使うべきだと僕は考えています。

また、別の観点からも国内産の石を薦めていくべきだと思います。

まず、「石」というものは、生活必需品ではありません。警沢品に分類されるものでしょう。ですから、石材店は衣・食・住に関わるスーパーや洋服店とはまったく違った商売をしていかなければいけません。スーパーなどは、近所のライバル店と安売り合戦をします。そして商品の値段を下げることでお客さんを獲得します。

ただしこの方法は、消費の絶対数が多い品を扱う業種だからこそできることです。我々のような絶対数が極端に少ない業界では、商品に付加価値をつけ、値段を上げることで一つの仕事に対する利益を増やしていく必要があります。

しかし実際は、中国材製品の安売り合戦をしているのが現実です。このまま「安さ」を追求していけ



子供と一緒に墓参りをする筆者

ば、必ず石材業界は衰退していき
ます。墓石の値段を下げることで、
墓石の価値が下がります。墓石の
価値が下がることで一般の方々の
「お墓」への価値観が変わります。
価値観が変わることで故人への想

いが「お墓」というものに反映さ
れにくくなり、そしてお墓離れは
ますます加速していくでしょう。
「お墓」が必要とされなくなれ
ば墓石を加工している業者は廃業
となり、それに伴い我々採石業者

も廃業となります。それは、今ま
で先人達が必死の想いで培ってき
た日本の石材業の技術が失われる
ことであり、日本の石の文化・伝
統が失われるということです。そ
れらを守るためにも日本の石で

「お墓」を造っていきたくは僕は
考えています。

現在僕は二十八歳。まだまだこ
の業界ではヒヨッコかも知れませ
ん。しかしこの石材業界に携わる
若者として、先人たちが創り上げ
た技術と日本の石の文化・伝統を
しっかりと受け継ぎ、それを後世
に伝えていくことを最大の使命に
感じています。

そして三十数年後、僕がこの石
材業界を引退するとき、後に続く
若者が笑顔で未来に希望が持てる
そんな業界であってほしいと願っ
ています。

百年と言わず、千年、二千年と
お墓が建立され続けることを願っ
て、また墓石の前で手を合わせる
光景がなくならないことを想像し
て、これからも一生懸命仕事に取
り組んでいこうと思います。

一年間ありがとうございました。